

H 1 8 年度生活環境科提言

生活が豊かになればなるほど自然環境が侵されていく中、私たちふる里の自然もしかりです。

その中から中区の産坂の桜が危ない、と言う意見が出ました。産坂に立ち並ぶ桜は、それは美しく、40年ほど昔花見の季節には、その坂道にぼんぼりが灯り、あちこちからの花見客で賑わっていたとか。

また、出かけていて産坂まで来ると「あー、家へ帰ってきたな」と心安らぐ場所でもあったそうです。

しかし、町境であったこの坂はゴミの不法投棄が後を絶たず対策が望まれていました。そして、村の人たちが協力して不法投棄のゴミを片づけネットを張られたり、中学生によるゴミの警告看板が立ったり、ゴミゼロズの方達の熱心なゴミ拾いのおかげで幾分美しさを取り戻した産坂です。しかし、その美しい桜も今は、道路の拡幅により何本かは伐採を余儀なくされたり、ほかの桜も旺盛な雑木に圧され美しい花も半減している状態です。そこで、この美しい桜を守るために是非とも何かの事業を取り入れていただき、桜の環境保全と共にその周辺整備をお願いしたいと思います。きれいに咲き誇る桜や眼下に町並みが見え、心安らぐ場所になったら、きっとゴミを捨てる人もいなくなると思います。

私たちは、日常生活の中で環境と向き合って暮らしていかなければなりません。家庭でも学校でも小さいときから環境に対する興味を持つことにより、自然に親しみ、物を大切にし、やさしい心を育むことができると考えます。小学校からの環境教育はすでに行われてはいることと思いますが、是非、町と教育委員会が連携し、自然に親しめるような環境教育の充実に力を注いでいただきたいと思います。そうすることにより、環境に対する意識の高揚はもとより、次の世代に引き継いでいくものは、物の豊かさではなく「ふる里の自然」こそが受け継がれていかななくてはならないものだということが自ずと理解でき、ふる里を愛する気持ちが生まれて来るのではないのでしょうか。以上の2点を提言致します。